

図書館へ行こう！

銀杏並木が色づき、朝晩の空気がすっかり冷たくなりました。師走を控えた慌ただしいこの時期こそ、読書の時間を大切にしてほしいと思います。この冬出会う本が、皆さんにとってかけがえのない1冊となりますように。



先生方おすすめの1冊



「おすすめ」の本は、すべて図書館で読めます。たくさん利用してくださいね！

国語科 堀野優子先生のおすすめ

菊池寛著『恩讐の彼方に』



私の地元近くに、「青の洞門」という史跡があります。『恩讐の彼方に』はこの洞門を舞台に書かれた作品です。

人は少なからず間違いを犯しながら生きています。そんな時、口先

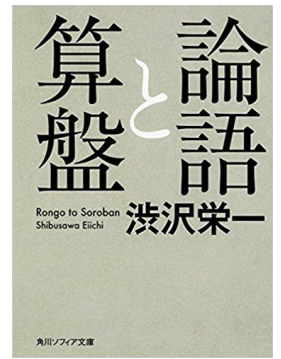
だけの「謝罪」は意味をもちません。だれかを憎らしく思ったときの、表面上の「赦し」もまた同様でしょう。

市九郎は、自分の罪と向き合いながら、21年もの間、掘削に全てを捧げ、償い続けました。直接的に強盗時代の犠牲者たちを癒すものではありませんが、その自己犠牲と献身には心打たれるものがあります。洞窟の中で実之助を憎しみから解放した槌の音は、きっと読む者の心にも響く、そんな作品です。

社会科 松元琢也先生のおすすめ

渋沢栄一著『論語と算盤』

明治から大正初期にかけて 500 近い会社設立にかかわり「日本実業界の父」と呼ばれた渋沢栄一が、後進のために経営哲学を語った談話録。論語(道徳心)と算盤(利潤)は対極にありそうだが、両立できると書かれている。私利私欲に走ることなく「みな幸せのために」を貫いた渋沢の言葉は我々の生き方



への大きなヒントがあるはず。難しい内容なので今は分からないことが多いと思いますが、じっくり読めば社会に出た時に必ずプラスになるはず。誰のために何のために努力しなければならないか考えてみませんか。

11月末～12月初旬の図書館利用日

日	月	火	水	木	金	土
11/26	27	28	29	30	12/1	2
						休館日
3	4	5	6	7	8	9
						13時まで
10	11	12	13	14	15	16

開館時間 10:00～18:15

読売新聞 2017.10.27 付「編集手帖」貼付